

# 英語における音象徴

## ヒーローのイメージに関する実験研究

神谷 祥之介

### 1. はじめに

音象徴とは「ある特定の音によって喚起される特定のイメージ(意味)」であり、言語学や心理学等の幅広い分野で研究されているテーマである。本研究はその中でも、音と「ヒーローらしさ」というイメージの結びつきおよび、幼児の言語獲得と音象徴の関連性を、英語母語話者に対して行った実験の結果を通して議論する。

音象徴の議論において、有声阻害音は汚いなどのネガティブな印象に結びつくとされる (Kawahara et al. 2008, 篠原・川原 2009)。これに関連して、Hosokawa et al. (2018) は、ディズニー作品中では有声阻害音は悪役の名称に多く使用されていることを報告し、有声阻害音と「悪役らしさ」というイメージの音象徴的結びつきの存在を示した。この傾向は神谷 (2020) による無意味語を使用した実験の結果からも、人間一般的な感覚である可能性が示されており、英語母語話者において有声阻害音は無声阻害音と比較して悪役らしいと判断されやすいという傾向が得られている。さらに、同実験結果から、獲得が遅い子音ほど「悪役らしさ」という印象に結びつきやすいことも示されている。このように、悪役の名称に関しては、一定の音象徴的傾向が見られることが確認されている。一方で、悪役とは対極に近い存在であるヒーローの名称にはどのような子音が使用されやすいのかについての調査は未だ行われていない。そこで、本研究では、悪役名における音象徴に見られた傾向と対照的な傾向がヒーローの名前において観察されるかどうか、また、それが見られるならば、その傾向が幼児の子音獲得の時期と関連するのかどうかを調べるために、英語母語話者に対して以下のような実験を行い、その結果を神谷 (2020) で得られたものと直接的に比較した。

### 2. 実験

実験には 12 名のイギリス出身の英語母語話者が参加した。神谷 (2020) と同様の基準に従った結果、最終的に分析対象は 8 名となった。悪役名に見られた傾向と比較するため、刺激には神谷 (2020) で使用されたものと同じく、子音 19 種類と母音 a, i, o, e の 4 種類で CV<sub>1</sub>CV<sub>2</sub>CV<sub>3</sub> という 3 音節の無意味語が計 57 個使用された (例: babibo)。実験の中で被験者には各刺激を架空のキャラクターの名前の候補として提示し、それらの「ヒーローらしさ」というイメージに対して 1 から 7 の段階 (1 が最もヒーローらしくない、7 が最もヒーローらしい) で点数付けをしてもらい、各子音に対する回答の平均値を求めた。

実験で得られた被験者の回答を集計し、無意味語を構成する子音ごとに算出した平均点を表 1 に示す。本研究の実験から得られた各子音についての「ヒーローらしさ」の点数と、神谷 (2020) に掲載されている各子音についての「悪役らしさ」の点数が対照的な傾向を示すかどうか、また、各子音の獲得時期と平均点の関連性を調べるために、Spearman の順位相関係数を用いた。なお、英語母語話者の幼児の子音の獲得時期のデータとしては Dodd et al. (2006) に掲載されている先行研究のデータのの一つを使用した。すべての分析の結果から得られた二つの傾向を (1) に示す。

- (1) a. 各子音に与えられた平均点において、「ヒーローらしさ」の点数と「悪役らしさ」の点数との間には有意な負の相関があった(「ヒーローらしさ」の度合いが高い子音ほど、「悪役らしさ」の度合いが低い)。(図 1)
- b. 本実験で得られた各子音の平均点と、使用された各子音の獲得時期に関するデータとの間に負の相関が確認された(獲得時期が早い子音ほど、ヒーローらしいと判断されやすい)。(図 2)

### 3. 考察・まとめ

本研究では、音と「ヒーローらしさ」のイメージの結びつきを、英語母語話者に対する実験により検証した。実験の結果から、「ヒーローらしさ」の度合いが高い子音ほど、「悪役らしさ」の度合いが低いと判断される傾向にあることが判明した。また、音象徴と獲得時期の関連性について、子音が喚起する「ヒーローらしさ」という印象の度合いと子音の獲得時期の間には負の相関があることが判明し、獲得が早い子音ほどヒーローらしいと判断されやすく、獲得が遅い子音ほどヒーローらしいと判断されにくいことが明らかとなった。これは悪役の名称に関する実験で見られたものとは正反対の傾向であった。これらの結果から、ヒーローの名称と悪役の名称に見られる音象徴的パターンは対照的である可能性が示された。

表1 各子音の平均点

調音法		調音点									
		両唇		唇歯		歯茎		硬口蓋 (硬口蓋歯茎)		軟口蓋	
閉鎖音	無声	p	4.8			t	4.5			k	4.3
	有声	b	4.2			d	3.6			g	3.5
破擦音	無声							tʃ	4.5		
	有声							dʒ	3.2		
摩擦音	無声			f	3.6	s	3.3	ʃ	3.8		
	有声			v	3.0	z	2.9				
鼻音		m	4.0			n	3.9				
接近音						l	4.3				
		w	3.2			j	3.4	j	4.1		

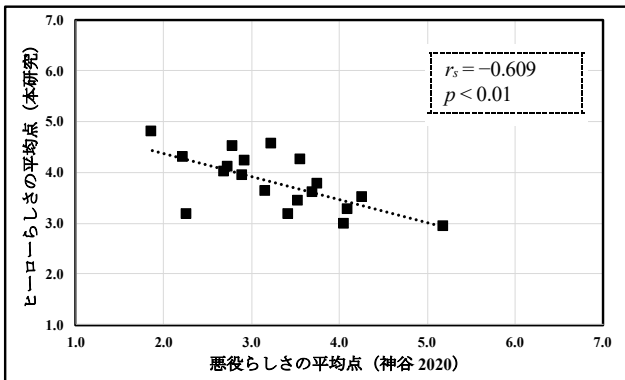


図1 ヒーローらしさの平均点 (本研究) と悪役らしさの平均点 (神谷 2020) : どちらの指標も点数が高いほどイメージの度合いが強いことを示している。

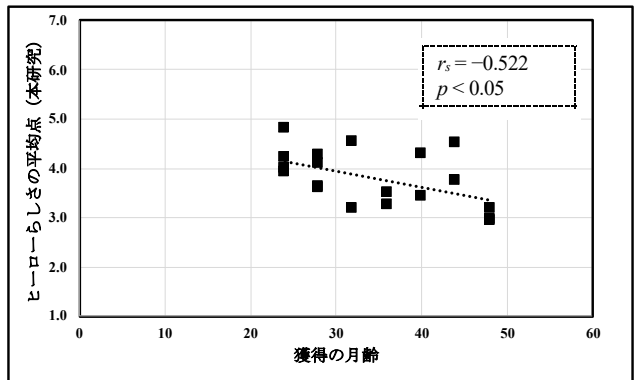


図2 ヒーローらしさの平均点 (本研究) と獲得時期のデータの散布図 : 獲得時期のデータはDodd et al. (2006) に掲載されていた中の一つである Prather et al. (1975) のデータを使用した。

## 謝辞

本発表の実験実施に当たっては、福岡大学音声学実験室研究プロジェクトからの援助を得た。ここに記して深謝の意を表す。

## 引用文献

- Dodd, Barbara, Alison Holm, Hua Zhu, Sharon Crosbie and Jan Broomfield (2006) English phonology: Acquisition and disorder. In: Hua Zhu and Barbara Dodd (eds.) *Phonological development and disorders in children: A multilingual perspective*, 25-55. Clevedon: Multilingual Matters.
- Hosokawa, Yuta, Naho Atsumi, Ryoko Uno and Kazuko Shinohara (2018) Evil or not? sound symbolism in Pokémon and Disney character names. A poster presented at the 1st Conference on Pokémonistics. Keio University, 26 May 2018.
- Kawahara, Shigeto, Kazuko Shinohara and Yumi Uchimoto (2008) A positional effect in sound symbolism: An experimental study. *Proceedings of the 8th Annual Meeting of the Japanese Cognitive Linguistics Association*, 417-427.
- 神谷祥之介 (2020) 「悪役名における音象徴 : 英語母語話者に悪役らしさを喚起する子音の調査」『九州英文学研究』37: 19-33.
- 篠原和子・川原繁人 (2009) 「音象徴の言語間比較 : 有声性のイメージに関する実験研究」『日本認知科学会第26回大会発表論文集』56-59. <https://www.jcss.gr.jp/meetings/jcss2009/proceedings.html> [2020年5月アクセス].
- Prather, Elizabeth M., Hedrick Lee Dona and Carolyn A. Kern (1975) Articulation development in children aged two to four years. *Journal of Speech and Hearing Disorders* 40(2): 179-191.